

君津市長「廃線容認」に怒りの声

JRの地域切り捨て許さず闘おう

久留里線（久留里～上総亀山間）の地元・君津市長が沿線住民に秘密で廃線を容認し、JRの廃線化に協力していることに怒りの声が上がっています。

君津市長には、廃線化についての見解を求める議会での質問や、JRに「廃線反対」と伝えるよう求める申し入れなどが行われていました。しかし、一切立場を表明しませんでした。ところが、昨年11月にJR東が「バス転換」方針を発表すると、何の議論もなく「廃線提案受け入れ」を表明したのです。

いきなり代替バスの運行計画

久留里線（久留里～上総亀山間）の存廃については、「君津市地域公共交通会議」で議論されるはずでした。しかし、6月23日に開催された第1回会議でいきなり代替バスの運行計画案が示されました。

君津市長 石井宏子様
JR東日本旅客鉄道株式会社千葉支社長 三島大輔様

JR久留里線（久留里～上総亀山間）9.6kmの廃線は決定されていません。存続を求めます

- JR久留里線の廃線は決定されていないのに、JRと君津市のみで進められている久留里線の廃線＝バス転換の作業をただちにやめてください
- JRも君津市も沿線住民をはじめ多くの皆さんの久留里線の存続を望む切実な声を真摯に聞いてください
- JRは、久留里駅まわりの列車を上総亀山駅まで走らせ、日中8時間半の空白をなくして鉄道利用者の利便性を確保してください
- 2023年3月、多くの市民のアンケート結果により決定された君津市都市計画マスタープランによれば、JR久留里線は、通勤・通学や買物などの暮らしに係わる様々な人々の利便を支えると共に、商業や産業、観光、観光文化施設へのアクセシビリティを高める軸と位置づけられています。この趣旨を尊重して久留里線の廃線はせずに、より利便性を高めてください。

お名前	ご住所



地域と新たな運動を開始
久留里線と地元の
闘いを開始

その後、地元で開かれた説明会は、「質問は代替バスの運行計画についてののみ」「久留里線の廃線・存続に関する質問は禁止」という、あまりにひどいものでした。

JRや君津市が参加する検討会議の報告書でも「路線バスで事業として成り立たせることは困難」とされています。どの会議でも「廃線」の結論は出ていません。その段階で、廃線化を前提に「代替バスをどう運行するかだけ」を議論しろ」というのです。

地域とともに「反対」の声を

JRと君津市は地元住民の切実な声を無視して、「廃線」を既成事実にしようとしています。

巨額の黒字を上げ続けるJR東は、不採算路線でも被災路線を除いて廃線に踏み切ることはできませんでした。久留里線（久留里～上総亀山間）は全面的な廃線化攻撃の「突破口」に位置づけられています。

これは「脱鉄道化」を進める組織・人事・賃金制度の抜本的な改悪と一つの攻撃です。地域を切り捨て、鉄道業務とそこで働く仲間をないがしろにするJRを許すことはできません。地域の怒りとともに、廃線化・地域切り捨てに反対の声をあげよう。